

第1回県立高等学校改革懇談会（福島西・福島北）記録

- 日 時 令和4年8月4日（木）14時30分～16時10分
- 会 場 福島西高校 生徒ホール
- 出席者 別紙参照
- 傍聴者 5名
- 進 行
 - （1） 開会
 - （2） 県教育長あいさつ

県教育長の大沼博文でございます。皆さまにおかれましては、日ごろから本県教育の進展に多大なる御理解と御協力を賜りまして、感謝申し上げます。

ただ今、改革懇談会委員の委嘱状を交付させていただきました。皆様には御多用中にもかかわらず委員をお引き受けいただき、また、本日の懇談会に御出席を頂きましたこと、心から御礼申し上げます。

さて、県教育委員会におきましては各界の代表の方々からなる、県学校教育審議会の答申をもとに、平成30年5月に今後10年間の県立高校改革の方向性を示す長期計画として、「県立高等学校改革基本計画」を策定いたしました。この中では、少子化により県内の中学校卒業者の数が、10年間で約5300人減少するという状況を踏まえまして、3学級以下の学校は統合する方針を示すとともに、高等学校に求められる学びの在り方や地域における学校の役割などを踏まえ、各校の位置付けや特色を明確にし、魅力ある高等学校づくりを推進することとしております。

このため基本計画をもとに、現在進めております前期実施計画期間中の成果と課題や昨年12月に策定をいたしました第7次福島県総合教育計画を踏まえ、令和6年度から10年度までの具体的な取組を示すものとして、後期実施計画を今年1月に策定をいたしました。

後期計画の中で県北地区におきましては、福島西高校と福島北高校を統合して、これからの時代に必要な資質と能力を育み、各分野のリーダーとして社会の発展に貢献する人材を育成する新たな高校を設置する方針をお示したところであります。福島西高校は創立59年、そして福島北高校は創立74年を迎える伝統校であります。地域を支える多くの有為な人材を輩出してまいりました。それだけに、関係の皆様对学校に対する熱い想いは重々承知をしております。しかしながら、将来を担う子どもたちに、より良い学びの環境を継続的に提供することが、県としての責務であると判断し、両校を統合する方向性をお示したところでございます。

本日は、地域の有識者の皆様、学校関係の皆様にお集まりいただきまして、後期実施計画策定の経緯、そして新たな学校の在り方等について御説明を申し上

げ、皆様から御意見を頂きながら、今後の教育環境についてともに考えてまいりたいと思っています。

どうぞ忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げます、あいさつといたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(3) 説明

(4) 懇談 (進行 菅野 崇 県立高校改革監)

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

ここからは委員の皆さまから忌憚のない意見を頂ければと考えている。また、ただいまの説明に対する質問や統合計画全体に対する疑問点でも結構である。

【 横山 信一 】(福島北高校同窓会長)

ただいま少子化の現状等について具体的なことを伺ったが、東西南北と高校がある中でどうして、この歴史のある福島北高校と福島西高校が統合しなければならないのか。例えば、福島南高校と福島東高校を統合することは考えられなかったのか。歴史的にも地理的なことを見れば、福島北高校が少し離れているが、突然、福島西高校と福島北高校の統合の話がでてきたのはなぜなのか疑問が残る。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

両校の近年の入学状況については、スライドのP16, 17に示されている。特に福島北高校については、非常に大きく定員割れを起こしている。これも少子化が大きく影響していると考えている。県全域で少子化の傾向が進行している中で、県北地区の今後の生徒減少を考えると、福島北高校は現在の4学級規模は維持できないと判断している。このような状況で、3学級以下となった場合には、統合の対象として考えた理由から、福島北高校が対象校として挙がった。統合の組合せについては、様々検討した。専門学科の実業系高校あるいは福島南高校あるいは福島東高校もその相手として考えてきた経過はある。結果としては、福島北高校は、これまで総合学科の高校として幅広い生徒の進路希望に対応するカリキュラムを設けて、その生徒たちの進路希望の実現に向けて努力してきた歴史や伝統がある。一方、福島西高校は、普通科の中に多様なコース制を設けており、普通系専門学科であるデザイン科学科を設置し、多様な生徒のニーズに応える学校である。このような両校の共通した学校の気質や方向性を考慮して、福島西高校と福島北高校の統合の組合せとして判断した。

【 紺野 篤男 】(地元有識者)

団塊の世代で以前より飯坂町で生活してきた。福島北高校に関しては、湯野の飯坂高校の頃から現在の状況まですべて知っている。やはり地元としては、

1000 人くらいの生徒が飯坂のまちなかを通して通学する姿がなくなってしまうことに寂しさを感じる。そうでなくても少子高齢化で飯坂の町は、どんどん賑わいがなくなってきた。その中で高校がなくなることは寂しいが、中学生や小学生の児童生徒の減少の話を知ると、統合はやむを得ないことだと理解している。

統合校は、デザイン科や総合学科で構成される学校になるようだが、我々世代からすると、大学には普通高校でないとなかなか行くことができないイメージを持っている。ただ今は非常に多様化しており、推薦等を活用して様々な特色を持った生徒が、一般入試でない形で進学できる状況になっている。その辺は十分に考えて学科構成していると思うが、やはり進学を目指すのであれば、それに合わせた学科を考えていかなければならない。進学率が今後も上昇し、ほとんどの高卒者が大学に行く時代になっているので、大学進学を考えた高校の学科構成が必要なのではないか。

次に、敷地を見たときに、面積的に北高の方が広い。こちらはまちなかで少し狭い。今の校舎を統合校でもそのまま利用するのか。あるいは統合を機に、それに適応するような校舎の建て替えを検討しているのかどうか。また、運動を考えたときに校庭が狭いのではないか。福島北高校は少しまちなかから離れた場所ではあるが、もしも運動部や校舎利用を考えたときに、北高の校舎を利用することは考えられるのか。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

1 点目「進学に向けた学科にすべきである。」ということについて、今回示した学科構成については、スライドの P22 に示されている。探究科を 1 学級、デザイン科学科 1 学級、総合学科 4 学級の形に構成する。探究科は、一般入試で進学できる学力をしっかりと身に付けることを目指しながらも、今ほど話が合った一般入試だけでなく、様々な入試方式で進学することを考えている。加えて、高大接続改革にある探究的な学習について、「どのようなことを高校時代に行ってきたのか」、その実績を評価して選抜する大学もある。必要な学力を身に付けるとともに、探究的な学習をしっかりと行い、両方 2 本立てで大学進学を目指していく学科の設定を考えている。デザイン科学科は、現在福島西高校にある芸術系の学科である。4 学級設置する総合学科について、例えば福島北高校では、文理等に分かれた学科などを設置している。具体的には、文理総合系列あるいは資格取得を目指した情報ビジネス系列など幅広い分野で学ぶことができる総合学科となっている。同じ総合学科でも会津学鳳高校では、進学に力を入れた系列を設置し、東大や東北大など難関大に合格者を出している実績もある。そのような総合学科でありながら従来の普通科に劣らず、学びとして目的を達成できるようなカリキュラムを持っていくことができると考えている。

2 点目「敷地が狭いことによる新たな校舎の建て替えなどは考えていないのか。」について、前期実施計画で進めている統合校同様、本県の場合には、統合する対象校のどちらかの校舎を有効活用しながら運営している。新たな統合校には、多くの生徒に主体的に選んで通学してもらいたいと考えている。その中で、生徒の都市部志向が強いこと、通学がしやすいこと、子どもたちが集まりやすいことを考慮して福島西高校の校舎を使用して学校運営をしたいと考えている。運動部に関する施設等については、現在も福島西高校の部活動の顧問の先生方が様々な苦勞をして運営している。今後の部活動については、両校の先生方で協議し、改めて検討する。

【 村上 敏通 】(地元有識者)

私は以前に飯坂支所長をしており、飯坂高校から福島北高校に変わるとき、その敷地確保について、「飯坂の皆さんからの多大なる協力で敷地を確保した。」と歴史的に聞いている。また、福島北高校は公立高校として甲子園出場を果たした素晴らしい歴史がある。その中で、様々な理由があり福島西高校に統合する話であるが、福島西高校は非常に敷地が狭いと感じている。その中で、広い面積で活動する野球部等について、福島北高校の施設をメインとして有効活用できないのかを検討していただきたい。

次に学科について、福島北高校は総合学科の学校である。この総合学科は非常に素晴らしい学科であると思う。けれども、中学生に対して「PRが非常に少ないのではないか。」と福島北高校の学校評議員会で発言してきた。そこを高校の皆さんの方で、中学生に対してしっかりとアピールしていくことが必要なのではないか。

もう一つ、コロナ前に福島北高校の生徒が、飯坂の地元の活動にボランティアとして参加していた。特に飯坂の幼稚園の運動会、小学校の行事、飯坂学習センターで行う地域の行事に、福島北高校の生徒が関わっていた。その活動を通して、地域の社会性を多々学んでいた。せっかく作った飯坂方部との地域性をいかに守っていくのか、活用していくのか是非とも考えていただきたい。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

1 点目「福島北高校の校舎をメインとして活用することを検討してもらえないか。」について、先ほども申した理由により、福島西高校の校舎を利用し、統合校の魅力化を図った学校づくりを進めたいと考えている。御理解いただきたい。

2 点目「総合学科の中学生に対するアピールが足りないのではないか。」について、統合校の開校前々年度には、地域の中学2年生を対象に、説明会を実施する。開校前年度になれば、高校の先生が、中学校に赴いて生徒あるいは保護者、中学校の先生方に対して説明会を実施する。そこで統合校のより具体的となった内

容を説明する。加えて、ホームページ、パンフレット、ポスター等を活用して統合校の魅力をしっかりとPRしていきたいと考えている。

3点目「地元の活動に福島北高校の生徒がボランティアで参加した話」について、そうした形で受け入れていただいたことに感謝を申し上げたい。確かに、あの世代の子どもたちが地域に出ることによって社会性が身に付き、大人と言葉を交わす、交わることで今までになかった成長があると認識している。統合校においてもそうした取組みが可能となるかどうか、総合学科の系列の持ち方を含めて「どのような教育活動が可能となっていくのか。」「子どもたちに必要なものとして設定していくことができるのか。」今後、両校の先生方と今ほどの意見を含めて情報共有しながら検討を進めていきたい。

【 中村 宗成 】(福島北高校 PTA 会長)

私からは3点ある。まず1点目は、統合後の福島北高校の校舎をどうするのか。2点目は、前期実施計画で進めた令和2年度から令和4年度までの統合校において、統合を進める中でどのような意見があったのか。統合における様々な問題点や統合して良かった点をフィードバックしているのか。3点目は、魅力化と言っても様々な表現がある。今の時点でどのような魅力化を考えているのか、多様性についても、もう少し具体的に示してほしい。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

1点目「福島北高校の統合した後の校舎をどうするのか。」について、前期計画で統合した高校の跡地もそうであるが、まずは利活用について何か考えがあるのかどうか地元自治体と相談していきたい。教育庁での管理運営が終わる段階で、教育庁以外の県の知事部局も含めて、県の施設として活用する目的があるかどうか確認した上で、地元自治体に相談する流れとなっている。「いま現在は何かあるのか。」であれば、「まだ何も決まっていない。これから検討していく。」という段階である。

2点目「前期の統合を進めていく中で何か問題がなかったのか。」について、後期もそうであるが、統合により高校がその地域からなくなることにに対する不安の声は頂戴している。そのようなことについて、前期の統合校では、子どもたちが統合前のその地域を含めて地域探究活動、探究的な学びをするフィールドとして地域を訪問し、地域の方々と触れ合うことでその地域を知り課題を聞いて、高校生の様々な視点で考え、解決策を提案していく学びを展開している。後期においてもこのような取組を参考に、どのようなことが可能なのか、具体的に考えていく。また、「統合して良かった」点について、前期の統合校では、2学級と4学級規模の学校が統合して、今までよりも大きな規模になった学校がある。その結果、「部活動の選択肢が増えた。」「それぞれの部活動に子どもたちが増えた。」

「学校の中に子どもたちの数が増えたことによって学校の中に活気が戻ってきた。」との保護者から意見を頂戴している。

3点目「魅力についてもう少し具体的に。」については、4月、5月に学校訪問して説明したときと同様に、方向性や設置する学科について大筋は出来上がっているが、より具体的な部分に関しては、今後、両校の先生方に意見を伺いながら決めていく。御理解いただきたい。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

前期計画で取り組んだ際に見えてきた課題やその対応、中村委員が述べていた学校の魅力化や地域とのかかわり、その地域がもう少し小さい町になると、「地域の衰退が心配である。」という声も当然あった。このような点について我々も振り返りを行い、今回策定した後期計画冊子のP4,5に整理した。これを踏まえて、後期統合校では、課題を教育内容検討委員会の中で見い出して、それぞれに対応していく。後期実施計画の冊子については後ほど見ていただきたい。

福島西高校の関係者から御意見をいただきたい。

【 藤原 里香 】(福島西高校 PTA 会長)

子どもの気持ち、一番重要なのではないかと思う。学校では知識を学ぶところだけではなく、体験を学ぶところでもある。「この部活動があるからここに行きたい。」というのは子どもの気持ちとして多少あると思う。部活動の選択については慎重に整理していただきたい。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

今ほどの意見を踏まえて、部活動の在り方についても両校のこれまでの部活動の在り方を参考に検討していきたい。

【 紺野 篤男 】(地元有識者)

福島北高校は、旧市街地ではない。旧福島市でもない場所にあり、多分飯坂町の段階から飯坂高校としてあった。そういう意味では、福島西高校や旧市内の学校に比べて、学校に対する地域の思い入れがあり、「地元の高校」だという認識がある。以前統合の話があったときに、「懇談会はないのか。」と質問されたことがあった。統合して飯坂町から学校がなくなるのであれば「何か一言飯坂に残してほしい。」という意見も多分出てくると思う。その対応や説明を中学校などをお願いしたい。

また、私は中学校の評議員をしている。現在小学校・中学校は、様々な地域との交流を図って多様な経験をしている。自分である程度選択する意志を持っていれば高校に入学できると思う。しかし、高校に入学してから自分の考えが変わ

り、進路が変わることは多々ある。そのときに、本来ならば進学校に進みたかったのに、総合学科や実業高校に入学したために大学に進学できない。高校在学中で考えが変わったときに対応できるような形の教育が必要なのではないか。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

1点目「福島北高校は飯坂町の高校という意識が地元にはある。そのような思いもあるので説明をお願いしたい。」について、今までも地元や同窓会から要望があった場合には、我々が出向いて説明をした経緯はある。「説明してもらえないか。」と依頼があれば訪問して説明していきたい。

2点目「高校に入学してから進路目標が変化する子どもがいるだろう。そのような場合の対応」について、統合校において、探究科は進学に特化した学科であるので、そこを目指してほしい。デザイン科学科は美術系の学科で特色のある学科であるので、中学校段階からしっかりと目指していただきたい。総合学科について、1年生のうち、普通科と同じような既定のカリキュラム、進学にも十分通用する基本のカリキュラムを履修する。その中に「産業社会と人間」という自分の将来像を考える科目がある。その中で生徒は、「自分は将来こういう仕事に就きたい。」「こういうことをやってみたい。」「そのためには今高校でどういうことを学ぶべきなのか。」「高校だけでは足りなくて、大学にも行くべきだ。」など、将来を見極め、考える。その科目を通してしっかりと考えた上で、2年次に様々な系列から選択し、自分の進路希望に合わせた科目を履修して、目標の実現を図るのが総合学科である。そのような形で対応させていただきたい。

【 伊藤 隆之 】(地元有識者)

私もここに来るにあたり、福島北高校創立時の教育委員会の資料を調べてきた。当時の資料では、「福島高校や福島女子高校に追いつけ、追い越せ」というスローガンを持って福島北高校は位置付けられていた。新しい高校では、進学指導重点校として「福島東高校に追いつけ、追い越せ」のような具体的な目標をもってはどうか。また、「志願者数トップ」を目指してもいいのではないか。偏差値だけを重視するつもりではないが、一つの魅力ある高校づくりとして繋がっていくのではないか。その一つの具体案として、広報委員を選任して新しい魅力的な高校をアピールすることもいいのではないか。

次に、偏差値だけでなく、心の教育、道徳教育がとても大事あると考えている。また、金融教育、租税教育、コミュニケーション教育も大切であると考えている。それらについて外部講師を招聘する取組を行うことで、保護者から認められる学校づくりも必要ではないか。

最後に、デザイン科学科の学びや英語教育について、他校あるいは地域と連携することで、より魅力ある学校を目指してもらいたい。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

「志願者数トップとなるような高校を目指すべきではないか。」について、御意見に感謝する。我々もそういう気概を持って、是非そのような形となるように学校づくり、それからPR活動にしっかりと努めていきたい。そのPRを「両校の統合前の生徒の力を借りて実施することはどうか。」という御意見については、我々の中には今までなかった視点である。また、偏差値だけではない道德教育の重要性、あるいは英語教育の連携についても今後の教育内容の具体化を進める中で検討していきたい。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

長い伝統を支えていただいたのは同窓会の力が非常に大きいと感じている。同窓会長の目から見た今回の統合計画をどのように考えているか。

【 渡邊 美幸 】(福島西高校同窓会長)

話を戻してしまうが、これまでのいろいろな話や資料を見ると、敷地面積が狭い学校に移ることは変である。ある程度の人数がいて、ある程度のクラス数で皆切磋琢磨していいものを作るときに、「わざわざ狭い場所にくる必要はない。」と資料を見て感じた。私の息子も福島北高校を卒業した。先ほど商工会の方が言っていたが、飯坂町では人との触れ合いをととても感じた。「何が違うのか。」と考えたら、学校行事に出席している来賓の数であった。福島北高校は地域ととても密に関わっていると感じた。

通学に関しては、ここは駅に近い。だから遠くからでも来ることができる。確かに福島北高校に通学することは大変かもしれない。でも、飯坂線の駅からそれほど遠くはない。そういうことを踏まえ、跡地をまだ何も検討していないのであれば、もう一度、その辺を考えてもらいたい。確かに募集定員は、福島西高校は1学級減ったため100%になっている。今のままでは、福島北高校は中学生に人気がないのかもしれない。しかし、皆さんの話を聞いていて、いろいろなものを改革していこうと考えたら、広いところで運動もたくさんできて、サッカーや野球などの部活動も自由にできた方が良いのではないか

地域との連携について、福島西高校も地域の保育園等との触れ合いを実施している。息子の話や先ほど言っていたように、福島北高校の生徒はそのような行事にまで参加している。その活動を通して、いろいろなことを学んでいる。そのような飯坂町との触れ合いをなくすことは、寂しい。

私は福島西高校が大好きであり、もちろん何かあったら同窓会としていろいろ協力したい気持ちはたくさんある。ただ、話を聞いていたらとても疑問に思ったので、もう一度、検討してほしい。そして、例えば、「ここがなくなってこの跡地をどうするのか。」「福島北高校の跡地もどうするか。」本当によく考えて

ほしい。もったいない。すごくもったいない。前回の説明会のときに私たちから「野球の練習に福島北高校の校庭に行っていていいですか。」と話をした。福島北高校に行って部活動をしたいが、ここから自転車で移動するとしたら大変ではないか。そう考えたら広いところがあるのだからそちらの方がいいと思った。もちろん初めての1年生が通うのに楽なのは福島西高校である。でも、福島北高校はこの倍以上の土地がある。校舎面積も広い、総合学科などいろいろなものがある。もっといろいろなものをよく見て、先生方やいろいろな方の話を聞いて、もっともっと具体的にしていればと思う。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

今の段階での我々の考えは、先ほど説明したとおりである。一つの御意見として頂戴する。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

先ほど来、「中学生への情報の伝え方とか総合学科について理解はどうか」という話があった。中学校の佐藤校長にお出でいただいている。普段中学生と接していて、高等学校に対する生徒の考えあるいは持っているイメージ、生徒の様子を教えていただきたい。

【 佐藤 信行 】(福島市立岳陽中学校長)

中学校では、毎年高校説明会を必ず実施している。各高校の校長先生もしくは教頭先生が来校して、保護者も含めて学校の詳細について説明をしてもらっている。それを受けて、子どもたちは三者面談等を通して、高校の進学先や進路を決めている。福島北高校の総合学科、福島西高校のデザイン科学科などについても、丁寧に説明をもらっている。普通科についても例えば福島高校では医学に特化した取り組みについて話をもらっている。中学生はその時期に自分がどのような目標を持って学ぶのかを理解して高校選択をしていると思う。けれども学力の問題も当然あるため、今の子どもたちは、私立高校も併願し、県立高校も受験しているのが現状である。

統合校について、学区の再編をどのようにするのか。探究科でどのようなことを学ぶのか、具体的に中学生に示さないと選択できない。探究科をメインとして考えるのであれば、先ほど福島北高校のPTA会長が言っていたように、魅力化や具体的な内容を示さないと中学生は「頑張ってみよう。」という気持ちにはならない。「総合学科についてもどのようなものをメインとして学科をつくっていくのか、その選択の幅がどのように広がるのか、それとも就職や進学とかどちらに分かれていくのか。」など明確に示さないと、中学生がこの高校で何を学ぶかを決められないのではないか。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

非常に大事なところを御指摘いただいた。やはり統合校をつくることが我々の目的ではなく、そこをいかに魅力ある学校にして、生徒に選んでいただくことが本当に大事であると改めて感じた。魅力の内容については、先ほども申したとおり、学校の教員なども含めて具体的にこれから検討する。その情報については、丁寧に中学生あるいは保護者に伝わるように我々も積極的に主体的に活動をしたい。

それから今日は、行政からも出席をいただいている。地域との関わりについて話もあった。今日は政策調整部長の熊沢部長、市教育委員会から古関教育長が出席している。何か行政の側から発言があったらお願いしたい。

【 熊沢 淳一 】(福島市政策調整部長)

総論的な話になるが、再編に当たって子どもが主役となるので、まずは子どもたちの学ぶ環境が良くなること、子どもたちの進路希望が実現できることが必要である。今回の再編の大きな要因として人口減少の問題がある。このことは市としても非常に大きな課題として捉えている。その対策として、福島市で子どもを産み育てたいと思ってもらえるようにすることが重要であると考えている。その中で教育は非常に重要な部分である。福島市の教育に子どもあるいは保護者が魅力を感じるような高校教育が実現すればいいと思っている。

次に、地域との連携になるが、今ほど福島北高校のボランティアの話が出たが、地域と子どもたちの連携を通して子どもたちが地域に愛着をもって、一旦は地元を離れるかもしれないが、将来的には戻ってくる街づくりを実現したいと考えている。その一方で統合する場合に学校がなくなる地区も出てくる。そういった地区の賑わいをどうするのが今後の大きな課題である。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

今、御指摘を受けたとおり、私たちもこれからその土地に合った協議の場をしっかりと確保する作業を行う。その際、地元の行政の意見を参考にしたい。これからいろいろと相談していきたい。

古関教育長お願いしたい。

【 古関 明善 】(福島市教育委員会教育長)

私どもは義務教育を預かっている。義務教育の中での統廃合と高校での統廃合は、全く異なると思い、話を聞いていた。その中で進めている方向について、どうこう言うつもりは全くないが、これから求められているものとして、義務教育が終わって高校に進学するものがほとんどである中で、高校の在り方を15

歳の子どもにどのように選択させるかが非常に難しい。当然キャリア教育的な視点もあるし、私ども年寄りから言わせると「大学を目指すのであれば普通科である。そうでなければ、普通科以外の学校」という区分けが自然にあった。そうしたときにこれからは「大学までを見通した高等学校の位置付け」が求められる。そうすると総合学科であれ、探究科であれ、これが自分の学ぶ意識の中で、どのように位置付けることができるのか。そこが理解されないと難しいと思う。一度決めたことにより、途中で変更も当然ありうるが、そのことについて、義務教育を預かる者としては、丁寧に双方で説明を聞いたり、受けたりしていただければありがたい。そして、新しい学科、新しい学校ができて子どもたちにとって良かった。ということが一番大事だと思う。是非お願いしたい。

次に個人的な話で申し訳ないが、統廃合はやむを得ないとしても統廃合する地域を見るとどうしても都市部に集まる傾向がある。これもやむを得ないのかもしれないが、県北域内を考えると梁川と保原が統合する。さらに福島北高校が統合すると北の方に高校がなくなる。福島駅の周りに集中する。福島市に住んでいると、逆に飯坂線を使った活性化や福島という広い中で位置付けられている視点も必要になってくるのではないかと。子どもたちにとって通学の便利さは一方的な考えで、駅に近い子は便利であるが、駅から離れた子は、特に飯坂線の子は不便になる。そのバランスを考えていかないと「市全体の活性化はどうか」と思う。ただ、決まったことに対してどうこう言うつもりはない。そのようなことも踏まえて地域の方と話し合いをすることが大事である。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

御指摘のとおり、どうしても都市部に子どもたちの目が向いていることは私たちも感じている。今回の後期計画において、県内には7つの地域があり、会津は会津と南会津は高等学校が少ないので、全体的に考えているが、その地域でそれぞれバランスのとれた高校の在り方、学科やニーズを考えながら進めている。さらに、いま意見として頂いた、高等学校のそれぞれにどのような特徴があり魅力を持たせるかで、地域の中でバランスが図られていくと考える。是非これからいろいろと相談していきたい。協力をお願いしたい。

【 村上 敏通 】(地元有識者)

先ほど中村 PTA 会長の答弁の中で室長から統合後の福島北高校については、「何も考えていない。もう使わない。」の発言と感じた。先ほど西高の方も言っていたが、北高は敷地も広い。柔道場もある。ケース・バイ・ケースの活用の仕方がいくらでもあるのではないかと。福島北高校を全く使わない「自治体はどうしますか」となったときに自治体も大変困ると思う。全く使わないのではなく、使った場合にどうなるのかの選択肢も入れながら検討をお願いしたい。

【 中野 正人 】(県立高校改革室長)

「今現在は」という意味であった。今の意見を聞いて、どのようなことが可能な
のか、統合は令和9年であるので、少し時間がある。今の御意見も含めて、統
合跡地についてもどのようにしていくべきか検討していきたい。

【 菅野 崇 】(県立高校改革監)

他に御意見はあるか。では最後に大沼教育長から一言お願いしたい。

【 大沼 博文 】(県教育長)

本日は、私どもの説明に対しまして皆様から様々な御意見を頂きまして、本
当にありがとうございました。大きい内容は2つあったと私は思っている。1つ
はやはり魅力化・特色化をどう図っていくのか教育内容の部分である。探究科と
いう新しい学科も含めて総合学科、デザイン科学科の教育内容をどうしていく
のか。あと、部活動について非常に子どもさんたちが関心を持っている。そうし
たことも含めて新しい学校の魅力化・特色化をどのように図っていくかが1つ
である。あともう1つは飯坂地区とのつながりをどのように新しい学校に持つ
て行くのか。校地の活用の部分、跡地をどのようにしていくのか部分も含めて、
その地域のことを学ぶ機会を含めていろいろと考えていかなければならない
様々な視点を頂戴したと考えている。今日頂いた御意見をもとにして、より詳し
い方向性については、今後の懇談会で示して、また、改めて皆様から御意見を頂
戴したいと考えている。本日はありがとうございました。

(5) 閉会